

月夜野ホタルの里 ガイドマップ

- 交通： 車でおいでのときは、関越自動車道つきよのIC下車 8分
JRでおいでの場合は、上越新幹線上毛高原駅 徒歩 1分
- お問い合わせ： **みなかみ町観光協会** TEL0278-62-0401 FAX0278-62-0402 URA <http://www.enjoy-minakami.jp>
月夜野ホタルを守る会 (みなかみ町役場環境課内) TEL0278-25-5003
みなかみ町ホームページ <http://www.town.minakami.gunma.jp>
- 注意事項： ホタルを観賞するには、気温が20～25度で雨上がりの湿度が高く、蒸し暑い夜の8時～9時頃に良く飛びます。日によって多少は違いますが、9時を過ぎると休んでしまい極端に数が少なくなります。ホタルを観賞するときは、懐中電灯などの光を出すものを使用を禁止しています。ホタルは強い光に当たると視神経がおかされ死んでしまいます。マナーを守り、ホタル観賞を楽しみましょう。

ホタル保護地

休耕田を町で借受けてホタル保護のために整備しています。
7月中旬、ゲンジボタルの乱舞が終息する頃になるとヘイケボタルが発生し、クリスマスのイルミネーションのようなチカチカとした光りかたに変わります。
4月上旬、保護地の一角には水芭蕉が咲きます。



水芭蕉

ヘイケボタルは、ゲンジボタルよりもやや小型のホタルであることからヘイケと名付けられています。幼虫時代は主に水田でタニシやモノアラガイなどの巻貝を食べて生活し、畦道などの土中でサナギとなり成虫は6月下旬～8月にかけ発生します。発光はゲンジボタルより弱く、チカチカと随分早いタイミングで発光しながら水田を飛行します。

ピカー、ピカーと強い光を出すゲンジボタルに比べ地味な存在のヘイケボタルは、ここ数年かなり減少し心配されています。自然界のホタル全体の数が減っている中で、小川や溪流に棲むゲンジボタルは自然環境への関心の高まりと共に、保護地域の中では大夫その数を維持しているが、私有地である水田をすみかにしているヘイケボタルは生息環境の維持を農家個人に頼っているのが現状です。高効率化を追求し蓄積性の強い農業を使用した水田には生物が棲めないのと同様、もちろんヘイケボタルも生きられませんが、ホタルの棲みやすい環境を守ることが、人間にとっても良いということになります。

この地区は、平成元年度に「ふるさといきもの里100選」に選ばれたことをきっかけに「ホタルを守る会」を中心にホタル保護の気運が高まり生息環境が守られてきています。また、観賞コースは約2kmで、30分程度で廻ることができ、南側と北側の温度差で発生ピークがずれることから約1ヶ月と長期間ホタル観賞が楽しめます。6月下旬のゲンジボタルのピークが過ぎる頃、ヘイケボタルも飛び始めます。この地域は、ゲンジとヘイケボタルが同時期に発生する全国でもまれなところで、ゲンジボタルは水路側(沢)に対してヘイケボタルは水田の土手というように、はっきりと棲み分けをしているのが観察出来ることです。

蛍月亭・傍生の碑

平安の昔、京の歌人・源順が東国巡行の途中、当地を通ったさい、おりしも東の三峯山より昇る月を見て「オオ、よき月よの一」と深く感銘し歌を詠んだという伝説があります。これが月夜野の地名の起こり言われています。
蛍月亭から見る景色は、屏風絵のようで中秋の名月を観賞するのに格好のスポットです。
蛍月亭の傍らに建てられた供養碑「傍生の碑」はカワニナをはじめ多くの生き物への感謝と尊さを表し、すべての水棲生物の供養したもので、全国にただ一つの供養碑です。



蛍月亭

傍生の碑

ホタルの生態

私たちが一般に「蛍」と呼んでいるのは「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」ですが、ホタルの種類は世界中に2900種、日本には44種類がいると言われています。そのほとんどは一生を森や林などの陸上で過ごし、その中でも成虫になって発光するものは日本では21種類だけです。「蛍」は幼虫時代を水中で過ごし、地中でサナギとなり、成虫になると発光しながら飛行するという一生をおくりますが、このように変態を行うごとに生活環境を変えていく生態は世界的にも珍しく、また、幼虫はきれいな水流にしか生きられないことからホタルは「自然環境のバロメーター」とも言われています。

みなかみ町では、ゲンジボタル・ヘイケボタル・クロマドボタル・ヒメボタルの4種類が確認されています。
ゲンジボタルは、水辺のコケに産卵し、幼虫は里山の小川や溪流で巻き貝の一種であるカワニナを餌に生長します。四月下旬の雨の降った夜間に発光しながら一斉に上陸をはじめ土の中でサナギになり、6月中旬から羽化した成虫は夜露などの水分をとるだけでエサは食べず一週間の短い寿命を終えます。ホタルの発光はオスとメスが会うためのコミュニケーションであり、オス同士は同じ発光パターンを繰り返しながら飛行し水辺の草に止まって発光しているメスを探し回ります。最盛期など、一匹のメスに数匹のオスが群がったり、オス同士が発光しながら空中で乱舞し集まったりする様子は「蛍玉」、「蛍合戦」と呼ばれています。みなかみ町のゲンジボタルは、ピカー・ピカーと約4秒間隔で東日本の代表的な光り方です。



水路はコンクリートを使わず、町内の工事で出た転石を利用して「生き物に優しい」石積みです。

ホタル水路



駐車場は、町有駐車場・上組公民館・上毛高原駅ロータリー・矢瀬公園が無料で利用できます。その他民間の有料駐車場もあります。
迷惑な路上駐車はやめましょう。



ルートマップ

北側の沢入沢は、6月下旬から7月中旬が見頃です。下流から発生していきます。

月夜野ホタルの里

雨上がりの暗い夜(運が良ければ)草むらで、微かに光るクロマドボタルの幼虫を見つけることが出来ます。目をこらして見てください。



嶽林寺



曹洞宗のお寺で500年の長い歴史を有しています。

ホタルを守る会詰所

町有 P 20台

古城沢

蛍月亭、傍生の碑

- トイレ
- 観賞コース ※観賞期間中の夜間、車の乗り入れは出来ません。
- 道標
- ゲンジボタル
- ヘイケボタル

南側の古城沢は、6月中旬から7月上旬が見頃です。